

2020.05.05

熊本県子ども食堂アンケート結果について（第一報）

吉津 晶子（熊本学園大学）

I 子ども食堂アンケート概要

（1）調査主体

子どもから地域に拡がれネットワーク（TSUDOU・NET）・熊本県

（2）調査の目的

本調査は、県下の子ども食堂を取り巻く状況を把握し、何が必要とされているのかを明らかにするものである。

（3）調査対象

2020年2月7日に県下における子ども食堂実施者を対象に73通を発送。3月上旬までに返送が53通。返送率は73%（内、有効回答率100%）であった。

（4）調査内容

調査内容は以下の18項目から成り、全て記述式で回答を求めた。

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 名称 | 10. スタッフについて |
| 2. 代表者名 | 11. 食器や食材について |
| 3. 住所 | 12. 現在の財政状況 |
| 4. 連絡先 | 13. 食堂は順調か |
| 5. 食堂設立の動機 | 14. 困りごと |
| 6. 開催頻度 | 15. 行政への要望 |
| 7. 料金 | 16. 連携団体 |
| 8. 定員について | 17. 今後の予定 |
| 9. 施設について | 18. 食堂とは |

Ⅱ アンケート結果

質問項目 1～4 および 13,17,18 については割愛する。「5：食堂設立の動機」「14：困りごと」「15：行政への要望」は別途分析する。

6. 開催頻度

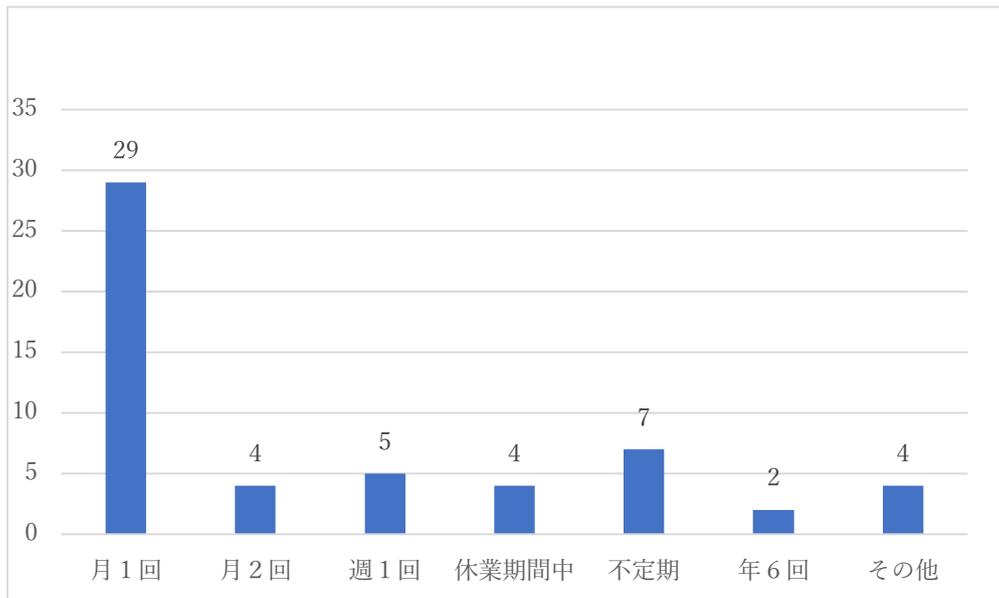


図 1-1 開催頻度1

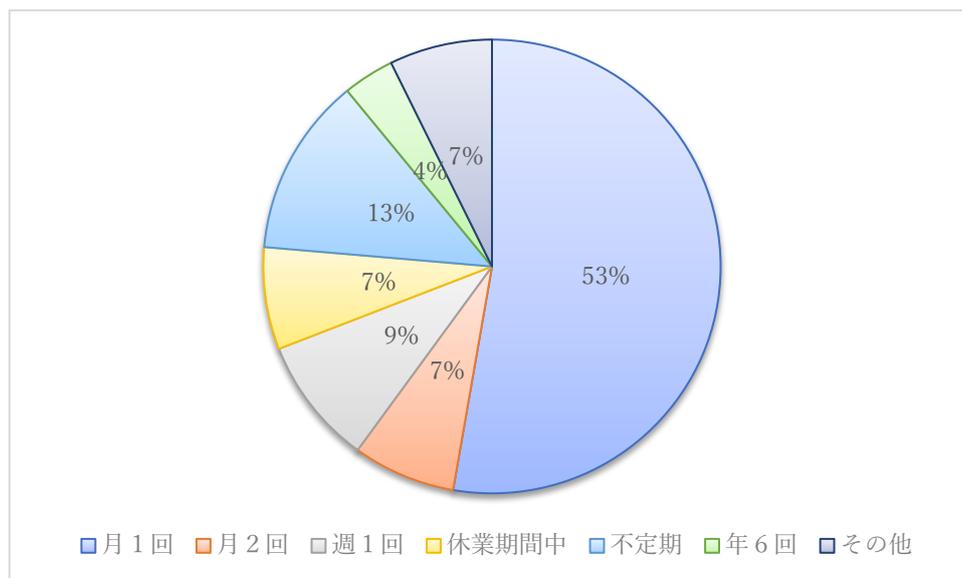


図 1-2 開催頻度2

図 1-1,1-2 より，開催頻度に関しては，半数以上の 29 の食堂が月 1 回の開催であることが分かった。次いで，不定期開催，週 1 回開催と続いている。その他に関しては，「給食のない日」と「夏期休業期間中毎日」というものもあり，それぞれの食堂の実状と合わせて，地域の状況が考慮されていることが考えられる。

7. 料金

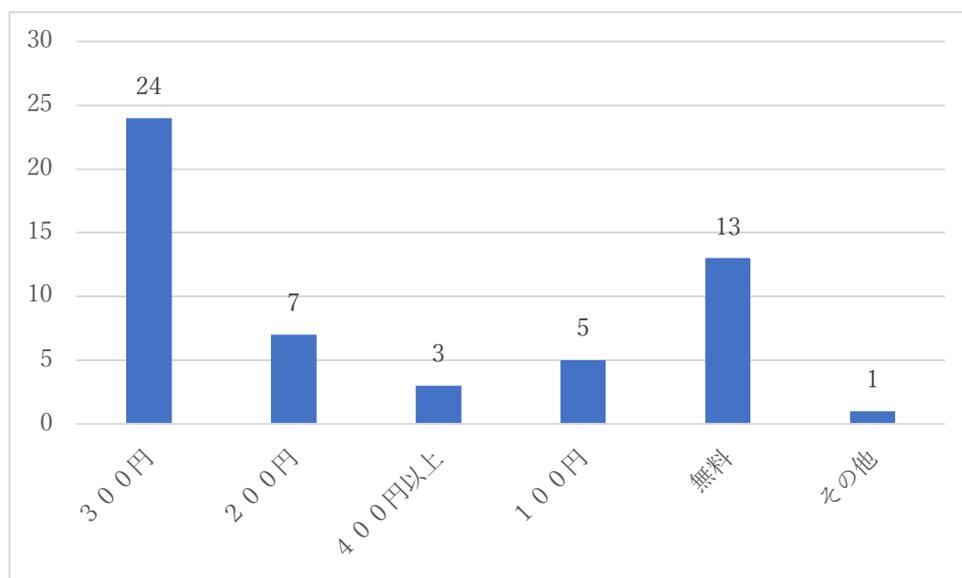


図 2-1 食事料金(大人)

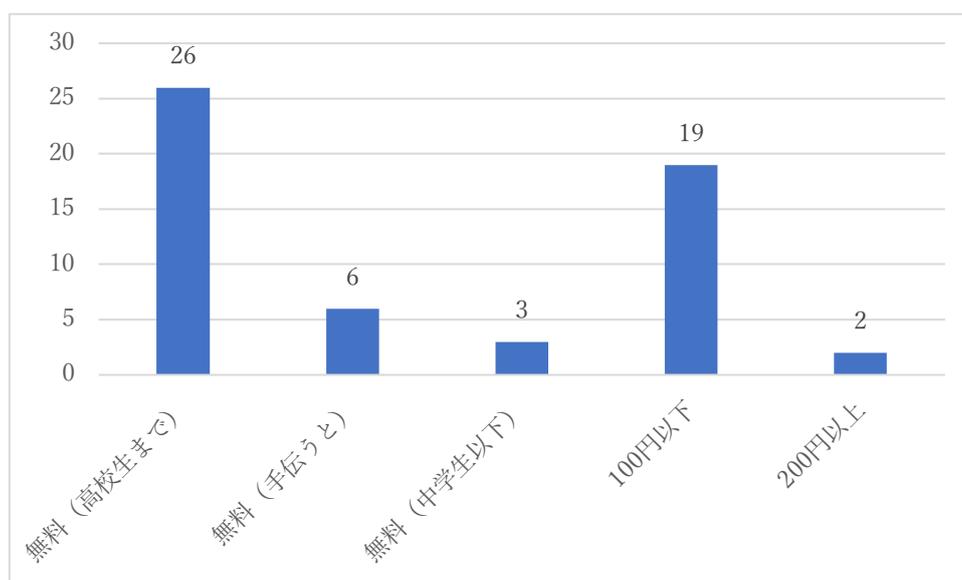


図 2-2 食事料金(子ども)複数回答あり

料金に関しては、多くの食堂において子どもは無料、またはお手伝いをすれば無料という設定であった。大人に関しては、300円という金額が最も多く、次いで無料であった。図 2-1 のその他に関しては、金額を設定していないものであった。図 2-2 に関しては複数回答になっており、細かい料金設定と条件設定が見られた。

8. 定員について

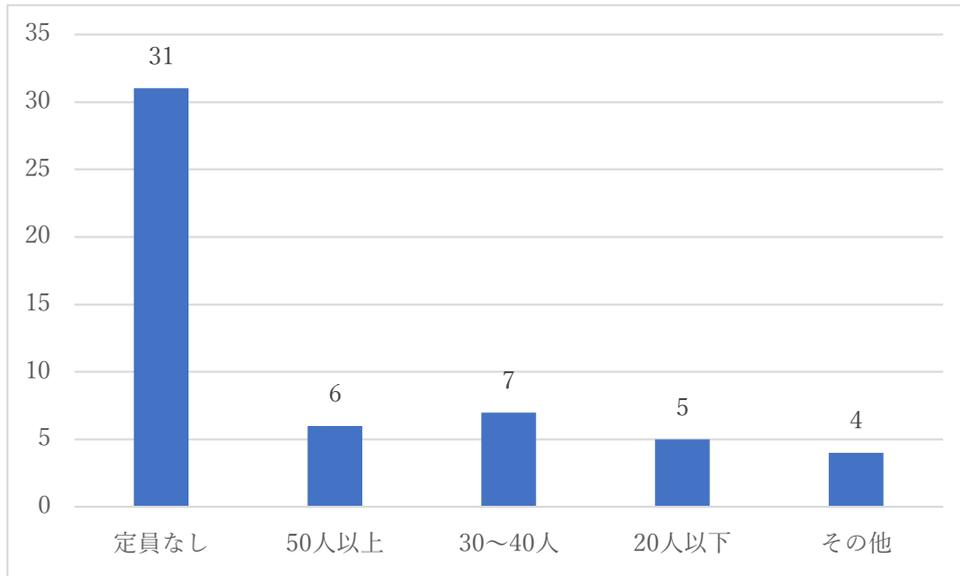


図 3-1 参加定員1

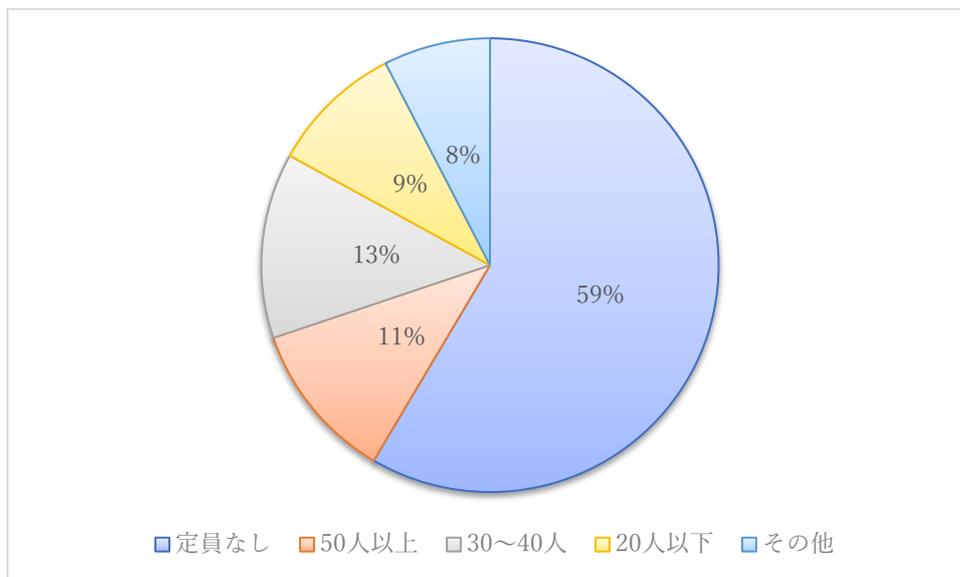


図 3-2 参加定員2

図 3-2 に見られるように 60%近くで食堂開催に際し定員を設けていないということが分かった。その他に関しては、ひとり親の会等の会員を対象とした食堂、ボランティアの人数をもとに受け入れを調整している食堂も見られた。

9. 施設について

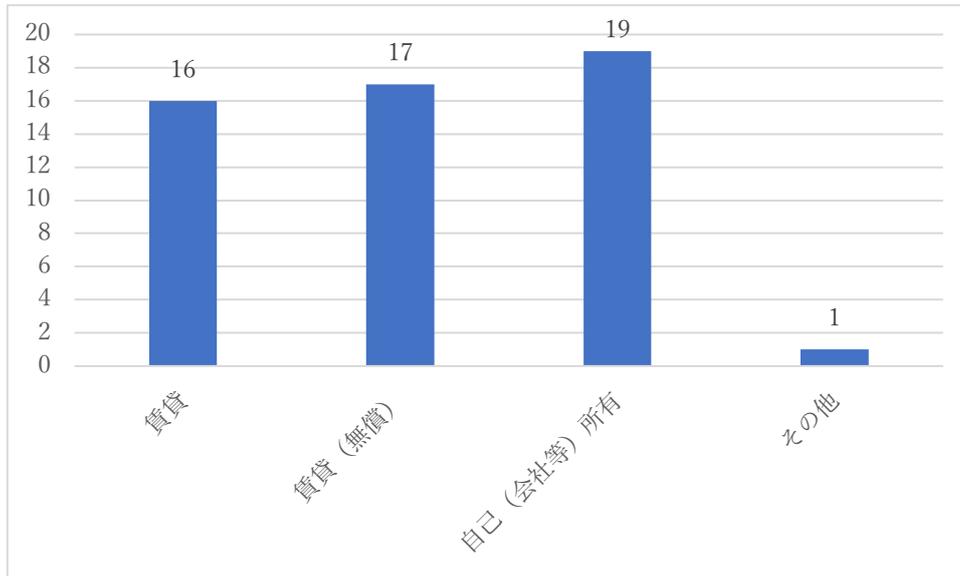


図4 施設について

図4に見られるように、施設については賃貸が有償無償を合わせて33箇所あり、食堂開催に合わせて借りていることが分かった。使用料に関しては、集会所等の使用で500円/1回から10,000円/月まで幅があり、施設使用料が大きな負担となっているという意見も見られた。

10. スタッフについて

(1) スタッフの人数

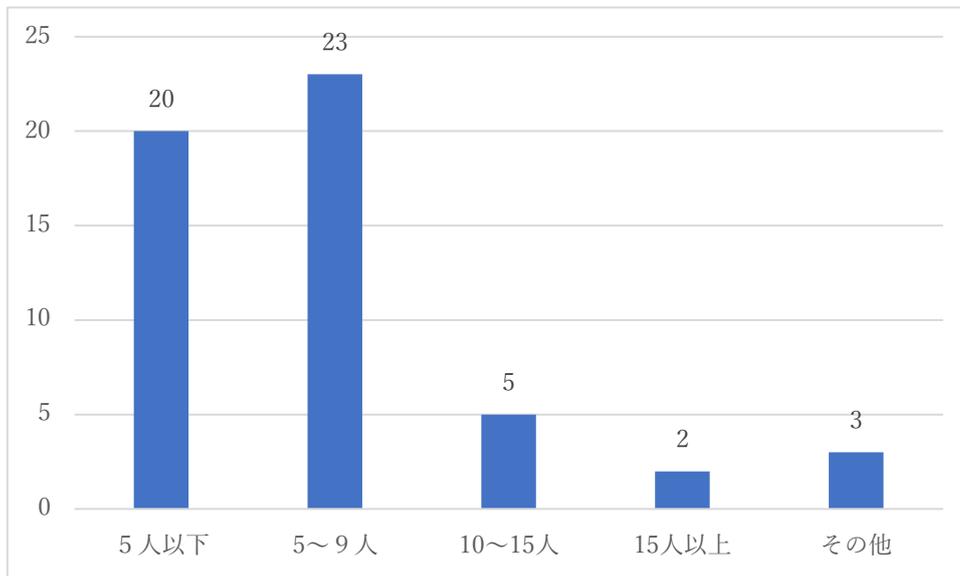


図 5-1 スタッフの人数1

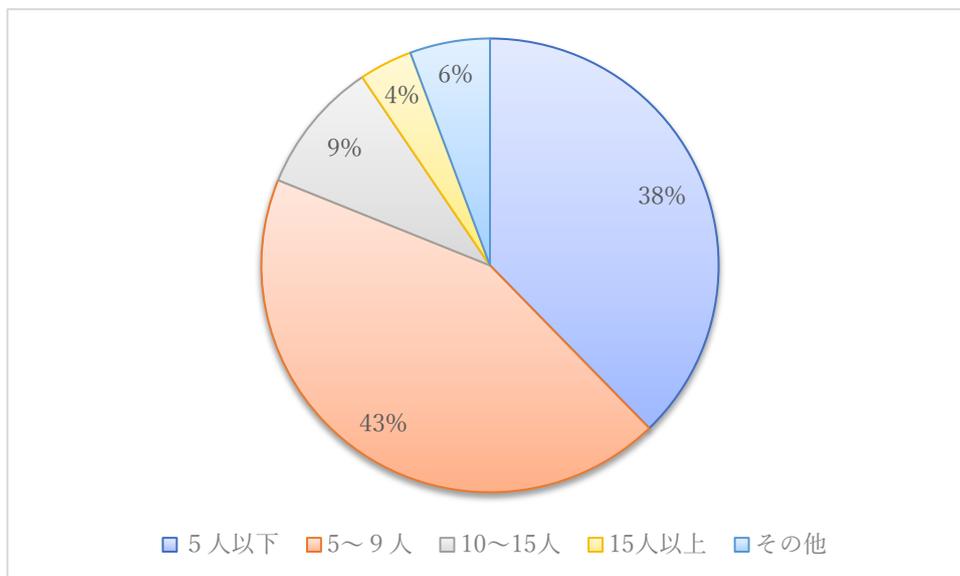


図 5-2 スタッフの人数2

スタッフの人数に関しては、図 5-2 に見られるように、10 人以下で運営しているところが多く、その中でも 3~4 名で運営している食堂が 11 箇所確認できた。

(2) スタッフへの謝礼等

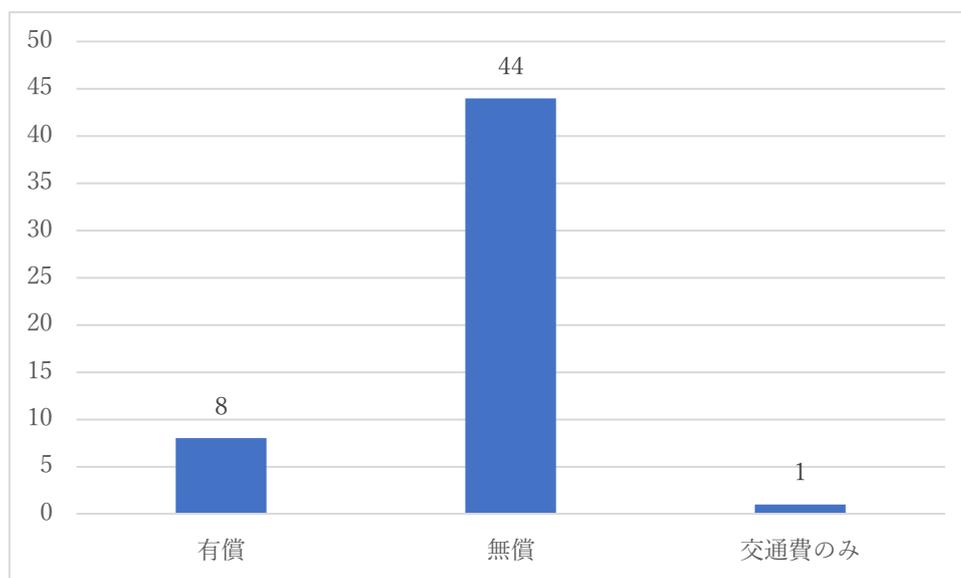


図 5-3 スタッフへの謝礼

スタッフへの謝礼に関しては、図 5-3 に見られるように、その多くが無償であった。その中では、今後の有償化を検討しているという食堂も確認できた。有償と答えた食堂の中では、交通費程度という回答から 2,000 円という具体的な金額の回答も確認できた。

11. 食器や食材について

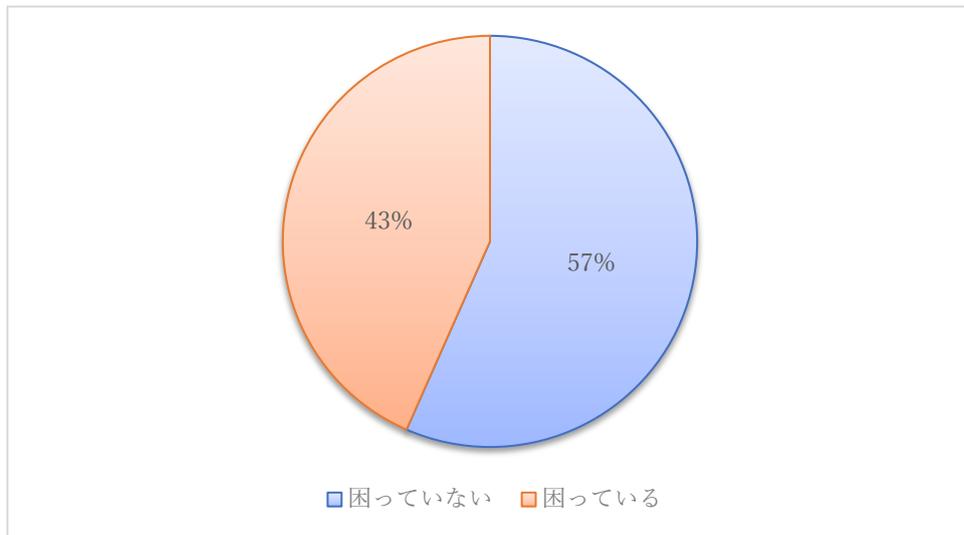


図 6-1 食器や食材について

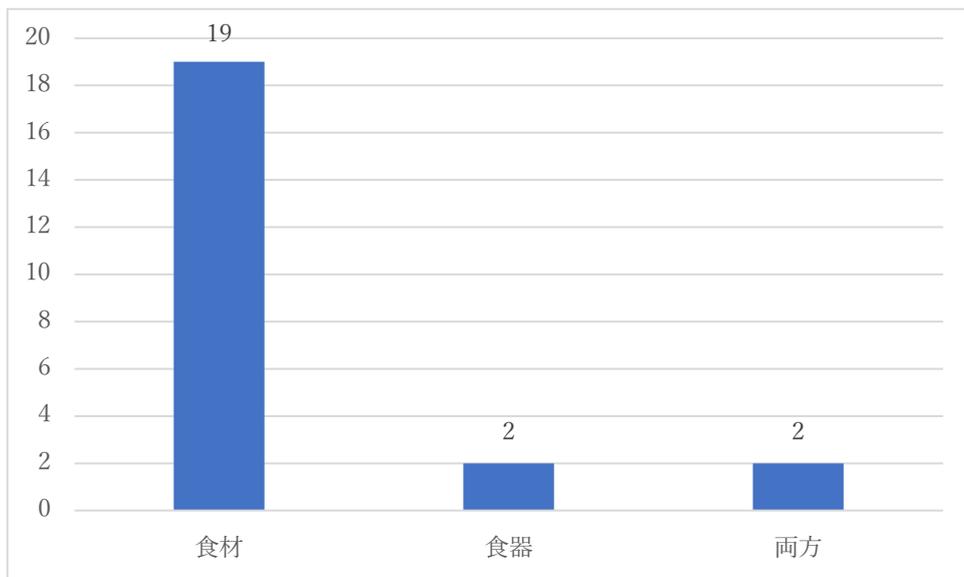


図 6-2 困りごとの内訳

食器や食材の困りごとについては、57%の食堂が困っていないと答えたが、残りの43%が困っているとの回答であった。図6-2に見られるように、その困りごとの内訳は「食材」に関するものが多く、保存がきかない肉や魚等の生鮮食料品を中心としたタンパク源となるものが少ないというメニュー上の悩みから、直接購入するための資金の悩み等が確認された。

12. 現在の財政状況

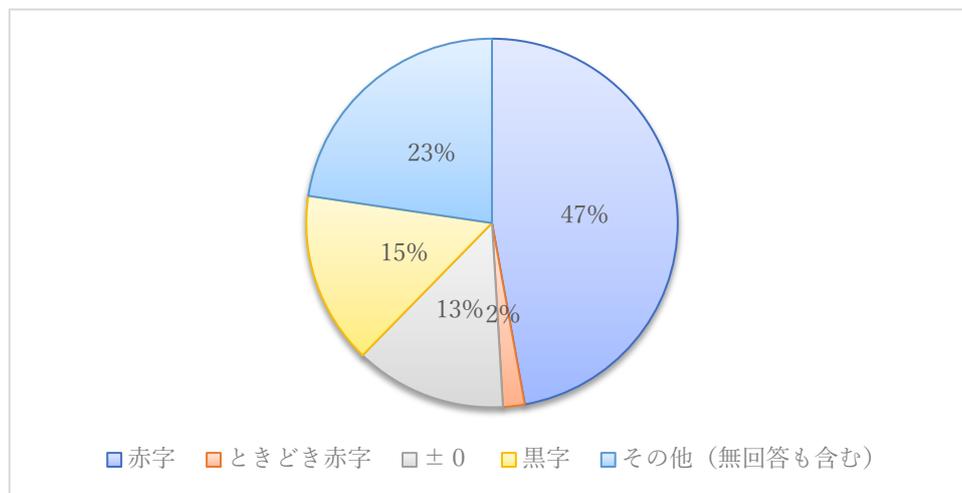


図7 財政状況

図7に見られるように、ほぼ半数が赤字（または時々赤字）となっている。それによって食材購入費用が足りないという記述が見られた。赤字分に関しては、関連する組織内の資金を補填するという記述も見られたが、多くが自己負担にならざるを得ない状況が見られた。また、土0で赤字ではないがギリギリの状態であるとの回答も見られた。一方、黒字であるとの回答も散見され、その多くが寄付や補助金、大人からの食事代の徴収によって成り立っているとのことであった。

Ⅲ アンケートの質的分析

質問項目の中から、「食堂設立の動機」、「困りごと」、「行政への要望」の自由記述部分を質的に分析するため、樋口（2014）*が開発した計量テキスト分析用ソフト KH Coder 3 を使用した。

1. 「食堂設立の動機」の分析結果

抽出語のリストを作成した結果、「食堂設立の動機」に関する記述からの総抽出語は1,881語で、そのうち助詞や助動詞など一般的に用いられる語を除いた「抽出語」は779語、分析対象とする「異なり語数」は487語、使用語は356語であった。記述中で多く出現している言葉の出現回数を示す抽出語リストの中から、例として名詞とサ変名詞、動詞上位15語を表1-1に示した。以下、これらの抽出語をもとに、共起ネットワークによる分析、階層的クラスタによる分析を行った。

表 1-1 「食堂設立の動機」に関する自由記述からの抽出語

抽出語(名詞)		抽出語(サ変名詞)		抽出語(動詞)	
子ども	50	子育て	6	知る	10
地域	23	交流	5	作る	8
食堂	14	支援	5	思う	8
居場所	10	食事	5	考える	7
社会	7	設立	5	持つ	6
貧困	7	調査	4	食べる	6
家庭	5	提供	4	感じる	5
現状	5	開設	3	行う	5
思い	5	活動	3	見る	3
地震	5	給食	3	出来る	3
方々	5	軽減	3	上げる	3
ママ	4	孤立	3	増える	3
高齢	4	貢献	3	来る	3
福祉	4	参加	3	立つ	3
ご飯	3	施設	3	育てる	2

* 樋口耕一、『社会調査のための計量テキスト分析；内容分析の継承と発展を目指して』，ナカニシヤ出版，2014

(1) 共起ネットワークによる分析

記述内容の全体的傾向を把握するため、共起ネットワークを描いた（図8）。共起ネットワークとは、出現パターンが似通った語を線で結んだものであり、紐帯の強いものほど語同士の関係が強いと解釈することができる。

図8の共起ネットワークは、語の出現回数3回以上、出現上位60で描き出している。その結果、朱線で囲んだ部位について特徴的なパターンが見られた。

特徴的なパターンの1つに見られた「熊本地震」に関する記述について表1-2にまとめた。さらに「親」に関する記述について表1-3、「子育て」に関する記述について表1-4にまとめた。

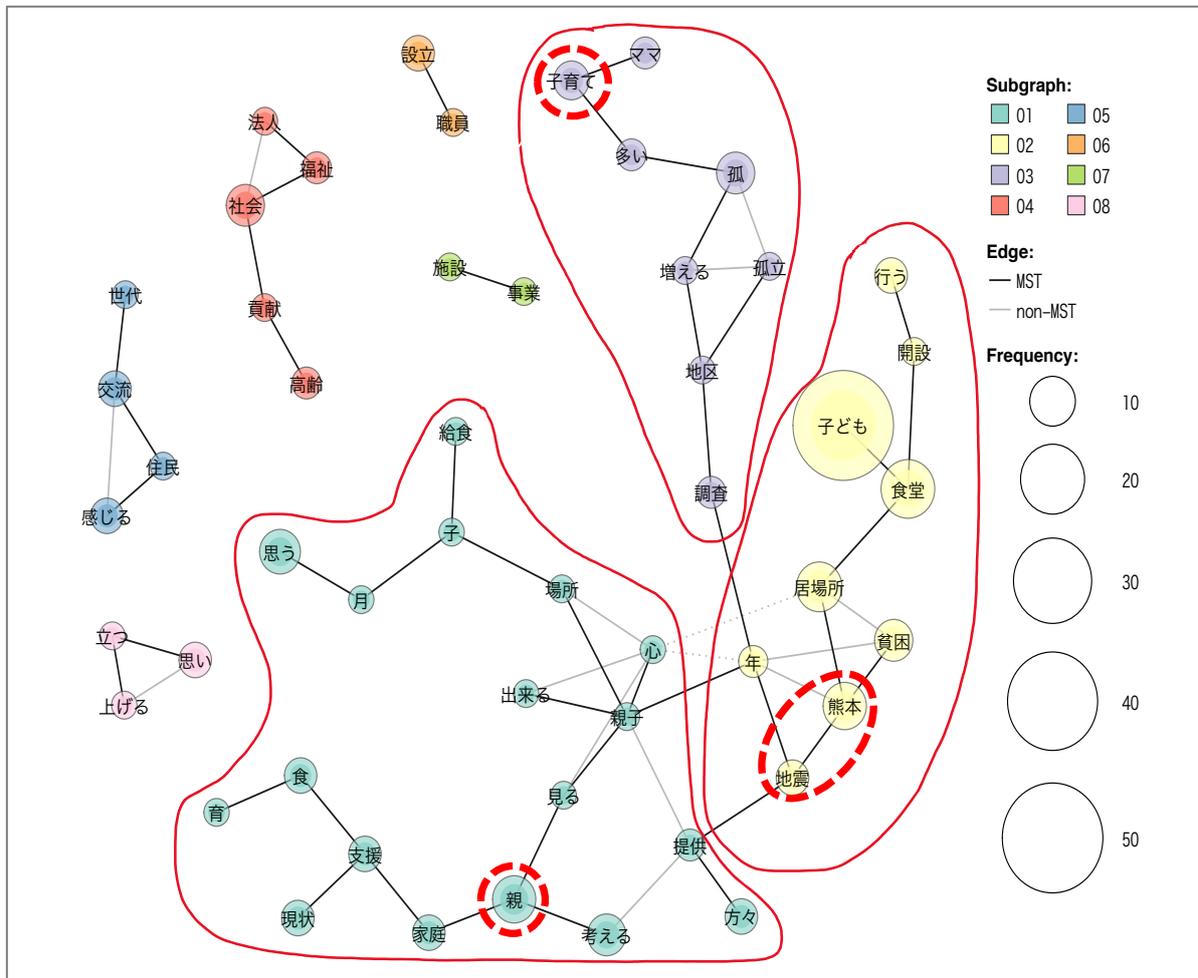


図8 「食堂設立の動機」に関する抽出語の共起ネットワーク

表 1-2 特徴的パターンに見られる「熊本地震」に関する記述

熊本地震後の居場所作りと県内各地に次々と出来る子ども食堂の手伝いをしていくうちに、親子でゆっくりできる場所を作り、親の心のゆとりが子どもの心のゆとりにつながるとして「子ども地域食堂」を始めました

熊本地震により被災された方々を無料にて招待した昼食会 150 食を完食し、2 回目も 120 食を提供できたことで継続することにした

熊本地震後の地域ネットワーク、拠点作り

熊本地震後に子ども達の不安を軽減させたい、子どもの貧困、孤食対策及び居場所作りを目的

熊本地震の時母子会に物資（食料も）が来て、子ども達にご飯を作ろうと言うことになりました

表 1-3 特徴的パターンに見られる「親」に関する記述

親子でゆっくりできる場所を作り、親の心のゆとりが子どもの心のゆとりにつながる

ひとり親の転入が増えていること、地区の高齢化が進んでいること、それにともない、孤立、孤食、ひきこもり等が増え居場所づくりが急務

小学校の給食がない日に、昼食が準備されていない子や、親や子のうっかりで給食がないことを認識していない家庭があるから

ひとり親家庭の子ども達は孤食が多くなっている為

ひとり親会の「地域の学習教室」の子ども達や親に勉強会後の食事の提供を考えて、実施するようになった

生活保護家庭、ひとり親家庭における食育の現状を見て、支援していきたい

表 1-4 特徴的パターンに見られる「子育て」に関する記述

子育て中の親子の居場所の提供

長期休み（夏、春、冬休み）中の子育てママの負担軽減のため

子育て世代において、孤育による母親の孤立した育児が多くなっている

子育てに疲れているママが多い事

子育ての面、子どもの食事などの相談等で人の役に立ちたかった

校区社協で子育て支援事業をするということになり協議の結果子ども食堂になった

(2) 階層的クラスタによる分析

さらに、抽出語を分類するために、語と語の結びつきを分析する階層的クラスタ分析を行った。結果を図9に示す。図9では6つのクラスタが導出され、それぞれクラスタ1（社会的契機）、クラスタ2（子育ての現状）、クラスタ3（子育て家庭への支援）、クラスタ4（地域社会の課題）、クラスタ5（食への思い）、クラスタ6（具体的行動）と命名した。

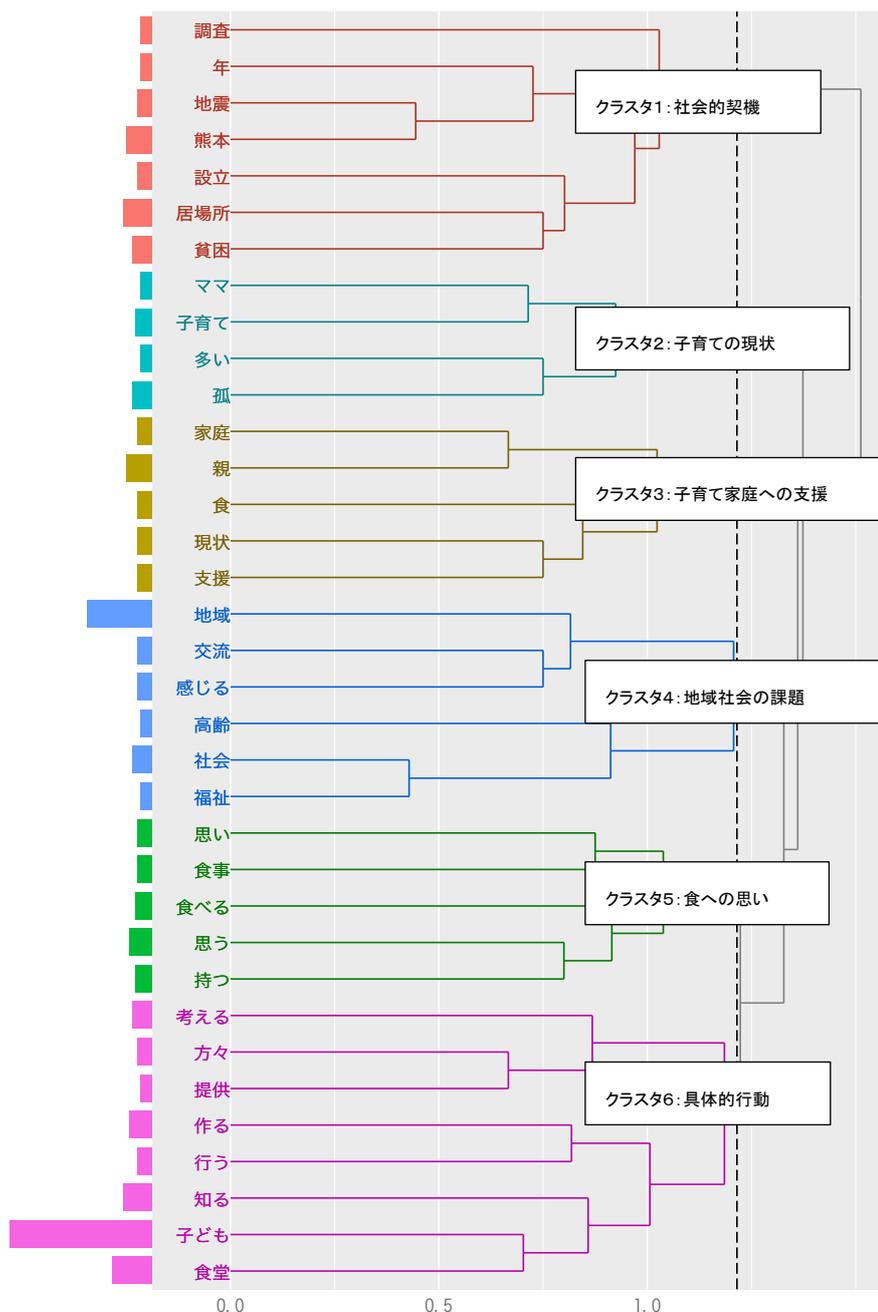


図9 「食堂設立の動機」に関する抽出語の階層的クラスタ

(3) 「食堂設立の動機」の分析結果からの考察

共起ネットワークにより明らかになったのが、「熊本地震」、ひとり「親」、「子育て」のキーワードを中心とした3つの特徴的パターンであった。これらを別の角度から分析した階層的クラスタで見ると、もともと地域にあった問題（クラスタ2：子育ての現状、クラスタ4：地域社会の課題）が熊本地震など（クラスタ1：社会的契機）によって表面化し、それに対応するため動いた（クラスタ3：子育て家庭への支援、クラスタ5：食への思い、クラスタ6：具体的行動）と捉えることができる。しかし、今回の調査では、子ども食堂の設立年についての設問を設けていなかったため、あくまでも推論の域を出ない。さらに追調査を行うことによって上記の考察について肯定される可能性がある。

2. 「困りごと」の分析結果

抽出語のリストを作成した結果、「困りごと」に関する記述からの総抽出語は1,225語で、そのうち助詞や助動詞など一般的に用いられる語を除いた「抽出語」は518語、分析対象とする「異なり語数」は409語、使用語は290語であった。記述中で多く出現している言葉の出現回数を示す抽出語リストの中から、例として名詞とサ変名詞、動詞上位15語を表2-1に示した。以下、これらの抽出語をもとに、共起ネットワークによる分析、階層的クラスタによる分析を行った。

表 2-1 「困りごと」に関する自由記述からの抽出語

抽出語(名詞)		抽出語(サ変名詞)		抽出語(動詞)	
子ども	19	確保	12	思う	7
ボランティア	9	参加	12	増える	4
食堂	9	不足	6	配る	3
スタッフ	8	支援	5	決まる	2
地域	8	開催	4	困る	2
食材	7	周知	4	作る	2
高齢	5	調達	3	悩む	2
人数	5	保護	3	余る	2
校区	3	来場	3	来る	2
器具	2	利用	3	下がる	1
資金	2	学習	2	掛かる	1
場所	2	協力	2	感じる	1
状態	2	調理	2	含む	1
食器	2	把握	2	含める	1
大人	2	お手伝い	1	求める	1

これらから、食堂の運営を支える人的資源が不足している（例えば、作り手の不足等）、またはより強化したい（専門的知識を有した人等）という意見として読み取ることができる。さらに、ボランティア間の価値観の違いへの対応に苦慮していることもうかがえた。

次に「食材」に関連する記述を表 2-3 にまとめた。

表 2-3 「食材」に関する記述

大学生はたくさん来ているのですが、 食材 が一番困っています
<u>毎回のスタッフの確保</u> 。毎回の 食材 の確保
継続していくに当たり、 <u>スタッフ、食材等の調達</u> が難しくなっている
<u>調理器具、食材などの保管</u> ができないため、自宅のパントリーが倉庫代わりとなっている
食器、 食材 の確保が必要

表 2-3 に見られる通り、「食材」のみに困っている食堂、「食材」と「スタッフの確保」に困っている食堂、「食材」と「食器」と「場所」といった、モノに関する全てに困っているという食堂が確認できた。これらは図 6-2 に具体的な数字（食材：9 箇所，食器：2 箇所，両方：2 箇所）が出てきているが、「食材」の確保に関しては、多くの食堂共通の困りごとであると考えられる。

次に「参加」、「子ども」に関連する記述について表 2-4 と 2-5 にまとめた。

表 2-4 「参加」に関する記述

<u>参加者の人数に波がある</u> ため準備したものが余ったり、不足したりする
<u>偏見（地域の高齢者）</u> により、 <u>参加を躊躇する</u> という声が聞こえてきて
<u>地域との連携がうまくいっていない</u> ので、子どもの 参加 が少ない事
参加者 が一定でなく人数変動が大きい事
参加 を集めるのに苦労します。 <u>子どもだけでは来れない地域</u> です。

表 2-5 「子ども」に関する記述

本当に必要とする <u>子ども</u> や保護者とつながり、 <u>つながり続けるのが難しい</u>
<u>地域との連携がうまくいっていない</u> ので、 <u>子どもの参加</u> が少ない事
<u>決まった場所があれば子ども</u> たちも安心して来られると思いますが
<u>子ども食堂と学習を並行してやっていきたいけど子ども</u> たちが <u>学習に参加しない</u>
<u>子ども</u> 達が <u>マナーを守らない時</u>

表 2-4「参加」に関して見られたのが、「参加人数の波」による食事の準備等の**運営に関わる問題**と、「偏見による参加の躊躇」と「子どもへの周知不足」という**地域連携における問題**、「子どもだけで来ることのできない場所」といった**立地に関する問題**の3つであった。

表 2-5「子ども」に関して見られたのが、「つながり継続の難しさ」という子どもや保護者との**「関係性」の問題**、「地域連携不足」, 「決まった場所がない」という前述した表 2-4「参加」と共通する**地域連携と立地の問題**、「子どもがマナーを守らない, 学習に参加しない」等の**「しつけ」に関する問題**の4つであった。

(2) 階層的クラスタによる分析

さらに、抽出語を分類するために、語と語の結びつきを分析する階層的クラスタ分析を行った。結果を図 11 に示す。図 11 では6つのクラスタが導出され、それぞれクラスタ 1 (場所・食材・器具), クラスタ 2 (地域への周知), クラスタ 3 (支援のあり方), クラスタ 4 (資金調達), クラスタ 5 (参加者), クラスタ 6 (人的資源) と命名した。

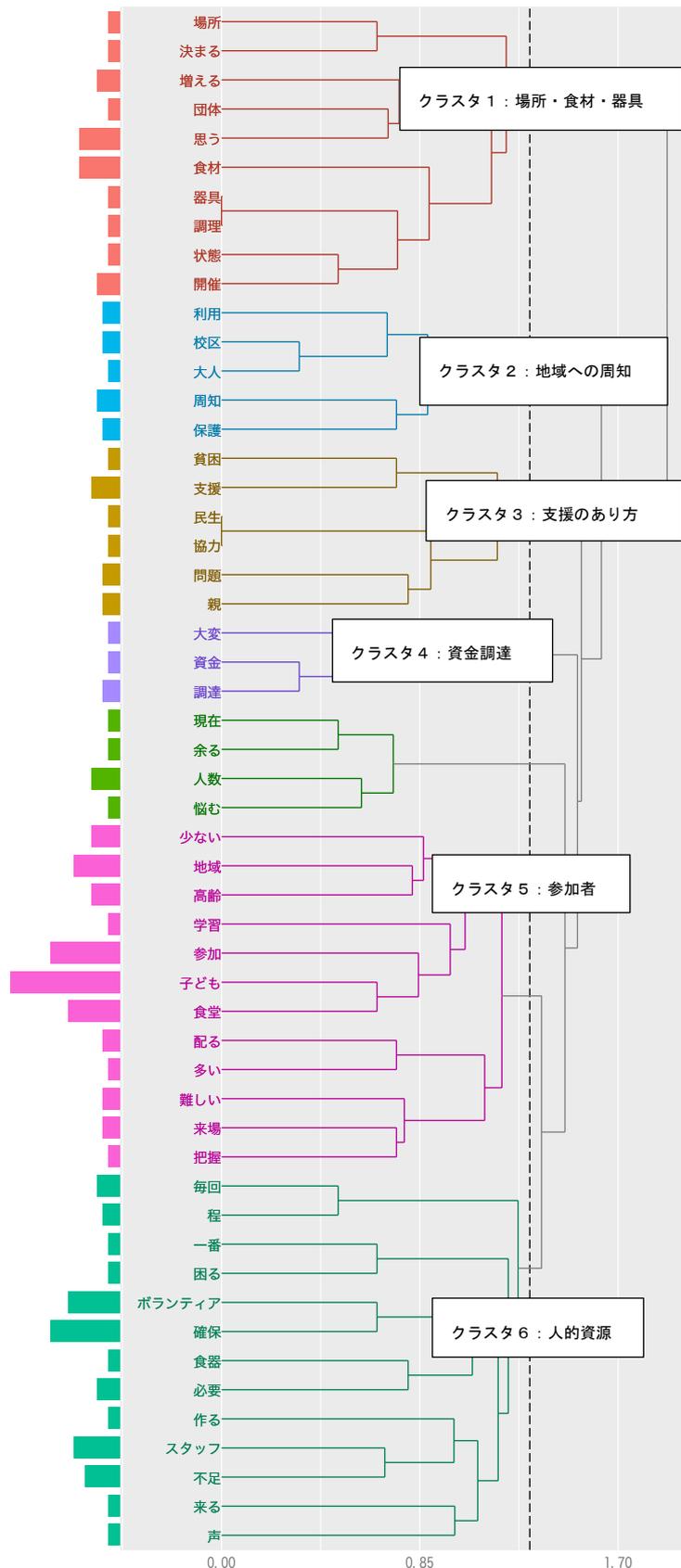


図 11 「困りごと」に関する抽出語の階層的クラスタ

(3) 「困りごと」の分析結果からの考察

共起ネットワークにより明らかになったのが、スタッフやボランティアといった「人的資源」の問題、食材を中心とした「物的資源」の問題、さらに「地域連携」と子どもや保護者との「関係性構築」というネットワークの問題であった。

さらに階層的クラスタで見ると、場所や食材、器具といった「物的資源」（クラスタ1：場所・食材・器具）についてまとめて捉えられていることが確認でき、多くの食堂における共通する困りごとであると考えられる。また、ネットワーク（つながり）という観点から、子どもや地域の人（クラスタ5：参加者）をどのように子ども食堂へつなげていくのか（クラスタ2：地域への周知）という問題とボランティア等（クラスタ6：人的資源）の問題が指摘できる。これらを広汎なネットワーク問題と捉えると、子どもや保護者との関係性の構築および必要な社会的資源へつなげていくための局所的なネットワークの必要性も困難として捉えられていることが考えられる。

また、共起ネットワークの中でもクラスタとして独立で捉えられている資金調達の困難（クラスタ4：資金調達）については、食材購入や賃貸料金、スタッフへの謝礼等とも関係しており、図7に見られるように、ほぼ半数が赤字（または時々赤字）からも見られるように、多くの食堂が困難として捉えていることが考えられる。

「困りごと」を集約するとヒト・モノ・カネに行き着き、想定はされていたものの、本調査結果によってこれらが肯定されたと考えられる。さらに、ネットワークに関する困りごとにも明確になり、先述した広汎なネットワークと局所的なネットワークという、それぞれの特徴も明らかとなった。

3. 「行政への要望」の分析結果

抽出語のリストを作成した結果、「行政への要望」に関する記述からの総抽出語は1,495語で、そのうち助詞や助動詞など一般的に用いられる語を除いた「抽出語」は667語、分析対象とする「異なり語数」は479語、使用語は361語であった。記述中で多く出現している言葉の出現回数を示す抽出語リストの中から、例として名詞とサ変名詞、動詞上位15語を表3-1に示した。以下、これらの抽出語をもとに、共起ネットワークによる分析、階層的クラスタによる分析を行った。

表 3-1 「行政への要望」に関する自由記述からの抽出語

抽出語(名詞)		抽出語(サ変名詞)		抽出語(動詞)	
行政	10	支援	10	思う	15
食堂	10	助成	7	知る	5
地域	10	運営	5	助かる	4
子ども	9	補助	5	作る	3
学校	8	広報	4	出来る	3
団体	6	開催	3	運ぶ	2
フード	5	活動	3	考える	2
バンク	4	関係	3	担う	2
ボランティア	4	協力	3	聞く	2
資金	4	要望	3	異なる	1
情報	4	連携	3	拡がる	1
食材	4	お知らせ	2	活かす	1
委員	3	案内	2	感じる	1
居場所	3	解決	2	関わる	1
校区	3	学習	2	含む	1

(1) 共起ネットワークによる分析

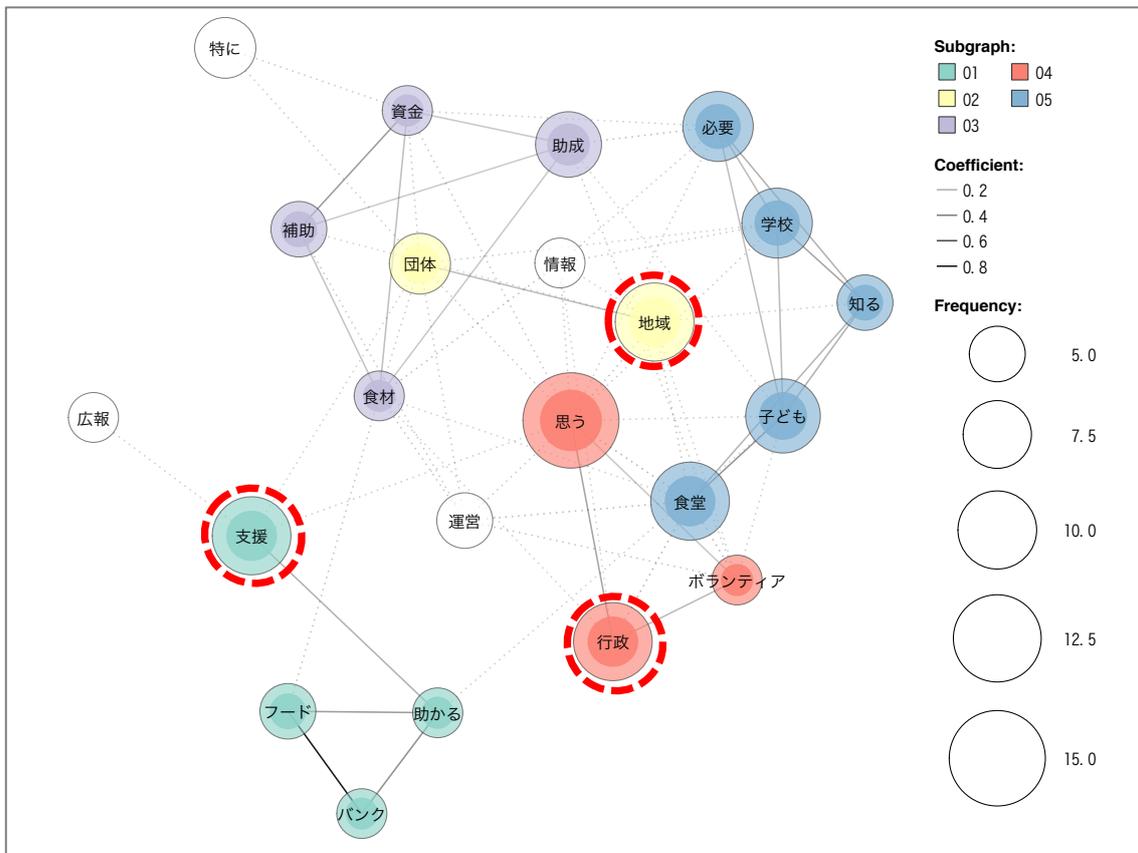


図 12 「行政への要望」に関する抽出語の共起ネットワーク

図 12 の共起ネットワークは、語の出現回数 4 回以上、出現上位 60 で描き出している。図 12 に見られるように、行政への要望に関しては多岐にわたり、直接的な支援や間接的な支援などいくつかの特徴が見られる。それらの具体的記述を「行政」「支援」「地域」の抽出語からまとめたものが表 3-2、3-3 と 3-4 である。

表 3-2 「行政」に関する記述

学校、行政が情報を共有すればもっと関係をよくし、効果的な活動が出来る。フードバンクを県内の数か所に配置していた
だけだと助かるのでこの協力体制を作ってほしい。

本業とは別にボランティアで食堂を運営されている方ばかりなので、この役割（広報）を行政が担ってくれるとよいと思う
行政職員，社協関係者の周知。広く情報を出してほしい。市政日より，県からの便りなど

食材調達がスムーズにできるよう，フードドライブを行政（市町村）で行ってほしい。誰もが平等に気軽に使えるフードバ
ンクの数を増やして欲しい。

継続していくには行政からの助成が必要です

表 3-3 「支援」に関する記述

各小学校区に開設出来るような後方支援
経済的支援、広報支援
ひとり親世帯への告知。学校を開放してほしい。朝食支援や、長期休み時にでの支援につながる
子ども達の野外含む体験学習、学習支援などをシステム化して、参加できるようになると助かります。

表 3-4 「地域」に関する記述

困っている人、本物に必要なとしている人のためにと思っているの、個人情報をお教えることができないならば、 <u>地域</u> の民生委員、自治会などにつないで欲しい
子ども食堂どうし、ボランティア、 <u>地域</u> や企業が連携できるように仲介してほしい
<u>地域</u> の助け合いの場として活用してもらいたい
<u>地域</u> ごとに開催団体を登録し、毎月のスケジュール作成→ <u>地域</u> 、学校 etc. …へ

表 3-2 「行政」に関する記述では、広報・情報の共有・食材調達・助成という、前項で集約された「困りごと」と直結した内容が目立った。その中でも具体的な内容としてフードバンクの配置やフードドライブ等の拡充を求めるものが見られた。また広報と合わせて、学校や社協等との情報共有を求める記述も確認できた。

表 3-3 「支援」に関する記述では、経済的支援や広報支援と合わせて、各小学校区に開設できるような後方支援を求める記述が見られた。さらに、子どもに関する支援の中で、野外活動や学習支援等と合わせて、支援のシステム化を求める意見も確認できた。

表 3-4 「地域」に関する記述では、地域連携の橋渡し役を行政に求める記述が見られた。地域の民生委員、自治会、ボランティア、企業等、その対象は多岐に渡っているが、行政が間に入ることによって状況が良くなるのではないかと期待が見られる。

(2) 階層的クラスタによる分析

さらに、抽出語を分類するために、語と語の結びつきを分析する階層的クラスタ分析を行った。結果を図 13 に示す。図 13 では4つのクラスタが導出され、それぞれクラスタ 1 (調整の支援)、クラスタ 2 (ネットワーク、つながりの支援)、クラスタ 3 (情報の支援)、クラスタ 4 (モノ・カネの支援) と命名した。

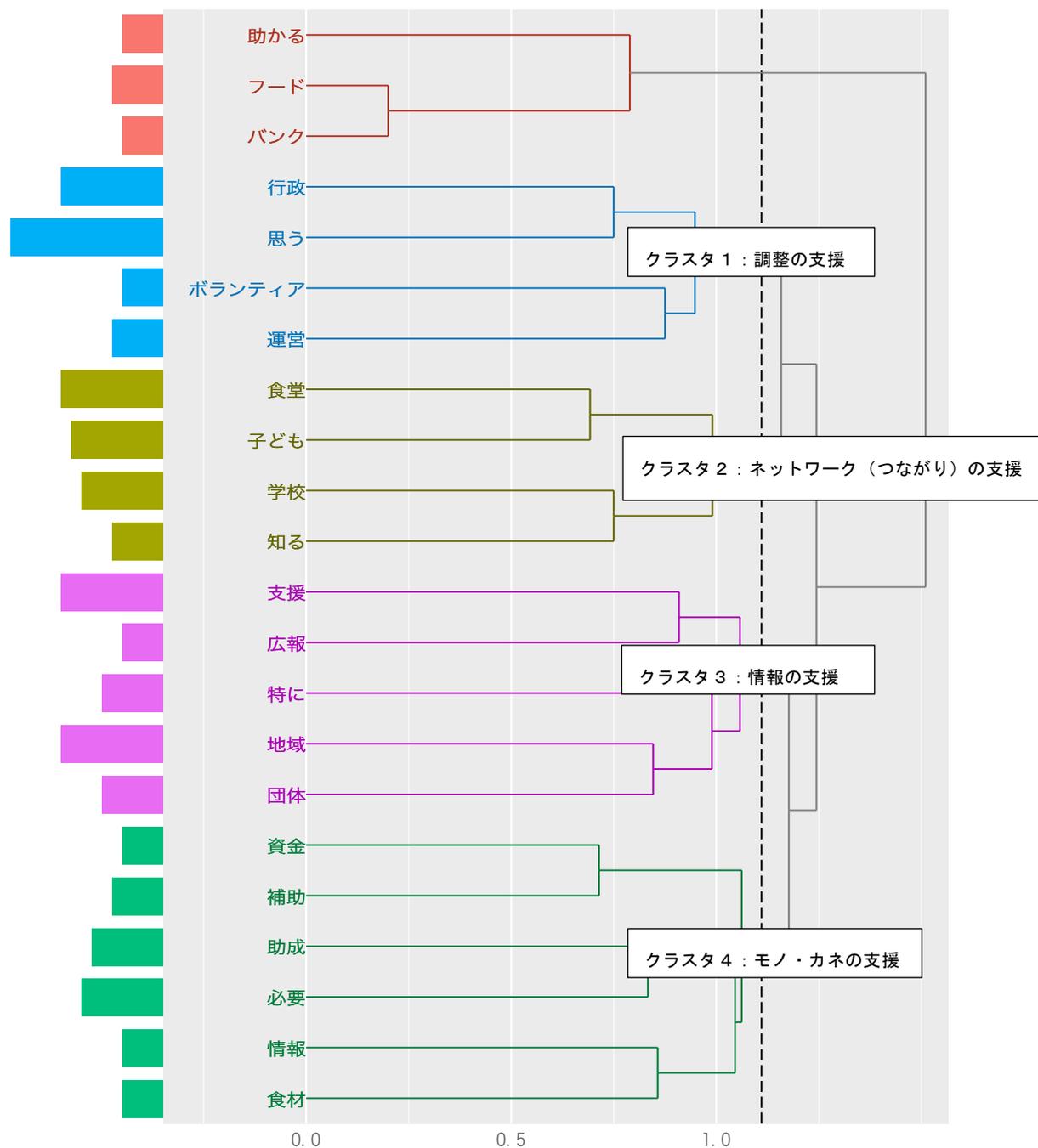


図 13 「行政への要望」に関する抽出語の階層的クラスタ

(3) 「行政への要望」の分析結果からの考察

共起ネットワークにより明らかになったのが、前項で示された「困りごと」と直結した表 3-2 の記述であった。図 6-2 に見られる多くの困りごとが「食材」であったことに対応して、行政への要望の一つがフードバンクの配置やフードドライブ等の拡充を求めるというものであった。さらに、食材購入にも関係してくるが、助成金等の経済的支援にかかわる要望も見られ、これらの点に関しては、図 13 の「クラスタ 4：モノ・カネの支援」においても確認することができる。

同じく表 3-2 に示された記述には、学校や社協等との情報共有への希望も見られ、この点に関しては、表 3-4 の記述にも同様に確認される。つまり、地域連携の橋渡し役を行政に期待しているといえよう。これらに関しては、図 13 の「クラスタ 1：調整の支援」「クラスタ 2：ネットワーク（つながり）の支援」においても確認することができる。

最後に、表 3-3 に示された記述には、経済的支援（クラスタ 4：モノ・カネの支援）や広報支援（クラスタ 3：情報の支援）と並んで各小学校区に開設できるような後方支援を求める記述が見られた。さらに、子どもに関する支援の中で、野外活動や学習支援等と合わせて、支援のシステム化を求める意見も確認できた。これらの要望に関しては、子ども食堂が発展拡大していく中で、今後、より必要とされてくるのではないだろうか。